K-706

天童市埋蔵文化財調査報告書第８集

鍬の町・和合北目地区

遺跡詳細分布調査報告書

１９９５

天童市教育委員会

序

本報告書は、平成６年度に、天童市教育委員会が実施した「鍬の町・和合北目地区」の遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

鍬の町・和合北目地区は、天童温泉の南側、舞鶴山の山裾に広がる田園地帯にあります。この地区では、縄文時代の塚田遺跡や鍬の町遺跡、奈良・平安時代の鍬の町条里遺構等の存在が知られています。また、舞鶴山は戦国時代末期に、東村山・北村山一帯に勢力をもった天童氏の拠点であり、その東山麓には古街道である横街道が通り、付近には七日町や八日町などの往時を偲ばせる地名が残っています。

鍬の町・和合北目地区では、市が地方分権特例制度を受けて、平成６年度から平成12年度までの７年間を実施期間として、新たに市街地を整備することになりました。そこで埋蔵文化財の保護の観点から、市建設部都市計画課からの依頼により、天童市教育委員会が遺跡の詳細分布について、発掘調査を実施することになったものです。

調査は、県遺跡地図に記載されている３遺跡と、天童古城に関連するものに主眼をおいて実施しました。縄文集落跡の残存状況の確認、条里遺構の検出、中世集落の遺構の確認、天童古城と関連する遺構の存在の確認を目的として調査を行いました。発掘調査は、耕作地を避けて行うなどの制約がありましたが、天童古城に関する道路や建物跡の検出など、大きな成果を得ることができました。

本書が、文化財の保護活用、本市の歴史の解明、さらに今後の調査研究活動の一助になれば幸いです。最後に、発掘調査に携わっていただきました川崎利夫さん、村山正市さん、茨木光裕さん、石井浩幸さん、そして、発掘調査のためにご協力をいただきました地権者の皆様、天童土地改良区、発掘作業員の皆様に深く感謝いたします。また、調査をご指導いただきました山形県教育委員会文化財課ならびに関係機関・各位に厚くお礼申し上げ、報告書発刊のご挨拶といたします。

平成７年３月

天童市教育委員会

教育長　横　田　光　正

例　　言

1　本報告書は、地方分権特例制度に基づき天童市が実施する新市街地整備事業に伴う、天童市鍬の町・和合北目地区の遺跡詳細分布調査の報告である。なお、本調査は舞鶴山公園整備に関連するため、出羽三ツ森を含めた遺跡分布調査報告書である。

2　本調査は、事業主体である天童市建設部都市計画課の依頼を受け、天童市教育委員会が調査主体となって実施したものである。

3　調査期間は平成６年５月５日から５月１１日に至る７日間である。

4　調査体制は次のとおりである。

⑴事業主体　天童市建設部都市計画課

⑵調査主体　天童市教育委員会

⑶調査担当　調査主任　川崎　利夫（日本考古学協会員）

調査現場

主　　任　村山　正市（日本考古学協会員）

調査員　　茨木　光裕（日本考古学協会員）

石井　浩幸（日本考古学協会員）

作業員　　矢作　力、相馬　春蔵、新関　十一、野川　庄四郎、奥山　俊男、石山　隆志、清野　藤典、佐藤　正七、平塚　芳雄、大沼　恵子

事務局　　三澤　将良（社会教育課長）、高橋　萬策（同　課長補佐）

長瀬　一男（同　副主幹）、　長谷川　武（同　主査）

調査協力　天童市建設部都市計画課、佐藤建設（株）佐藤　良宏、天童市シルバー人材センター

5　調査にあたっては、赤塚長一郎氏、長南憲一氏をはじめ地権者ならびに関係機関の協力を得た。記して感謝申し上げる。

6　挿図・付図の縮尺については、スケールで示した。本文・挿図中の記号は

Ｔ・Ｐ№ ― 試掘地点、　ＳＢ ― 掘立柱建物跡、　ＥＰ ― 柱穴、　ＳＫ ― 土壙

ＳＤ ― 溝・濠、　Ｆ ― 遺構覆土　などで表した。

7　本報告書の作成は村山正市が中心となり、長瀬一男・長谷川武が補佐し、調査主任の川崎利夫が総括した。編集は村山、長瀬、長谷川が担当した。

目　　次

序
例　　言
目　　次
Ⅰ　調査の経緯 ---------- 6
1　調査に至るまで ---------- 6
2　調査の方法と課題 ---------- 6
3　調査の経過 ---------- 7

Ⅱ　遺跡地名表 ---------- 8
1　天童市鍬の町・和合北目地区試掘調査遺跡地名表 ---------- 8
2　天童市舞鶴山付近遺跡地名表 ---------- 8

Ⅲ　試掘調査の概要 ---------- 9
A地区　1　塚田遺跡 ---------- 9
2　鍬の町条里遺構 ---------- 10
B地区　3　鍬の町遺跡 ---------- 13
4　天童古城東北部山麓 ---------- 14
C地区　5　天童古城　七日町 ---------- 16
D地区　6　天童古城　推定大手口 ---------- 17
（1）調査位置　（2）遺構調査結果　（3）遺物　（4）まとめ

Ⅳ　天童古城について ---------- 21
1　天童古城の概観 ---------- 22
2　天童古城の曲輪と諸遺構について ---------- 22
（1）東郭　　（2）和合地区八日町の曲輪
（3）和合地区七日町の曲輪　　（4）北目七日町の曲輪
（5）推定大手口の曲輪
3　まとめ ---------- 25

Ⅴ　まとめと今後の課題 ---------- 26
1　まとめ ---------- 26
2　今後の課題 ---------- 27

挿図目次

第１図　鍬の町・北目地区遺跡詳細分布調査関連地図 ---------- 5
第２図　調査地区設定図及び調査地点 ---------- 6
第３図　塚田遺跡試掘ピット配置図 ---------- 9
第４図　鍬の町条里遺構トレンチ配置図 ---------- 10
第５図　鍬の町条里遺構Ａトレンチ土層断面図及び平面図 ---------- 11
第６図　鍬の町条里遺構地積図 ---------- 12
第７図　鍬の町遺跡試掘ピット配置図 ---------- 13
第８図　天童古城東北部山麓トレンチ配置図 ---------- 14
第９図　天童古城東北部山麓Ａトレンチ土層断面図及び平面図 ---------- 15
第10図　天童古城七日町地区トレンチ配置図 ---------- 16
第11図　天童古城推定大手口トレンチ配置図 ---------- 17
第12図　天童古城推定大手口
　　Ａトレンチ・Ｂトレンチ　土層断面図及び平面図 ---------- 18
第13図　両黒土器実測図 ---------- 19
第14図　短刀茎部実測図 ---------- 20
第15図　天童古城縄張図 ---------- 21
第16図　和合地区八日町縄張図 ---------- 23
第17図　和合地区七日町縄張図 ---------- 23
第18図　推定大手口縄張図 ---------- 24

付表目次

第１表　調査の日程及び調査工程 ---------- 7

図版目次（３１ページから３５ページ）

図版１　塚田遺跡調査区
図版２　塚田遺跡調査区試掘ピット
図版３　鍬の町遺跡調査区試掘ピット
図版４　鍬の町遺跡調査区
図版５　鍬の町条里遺構調査区遠景
図版６　鍬の町条里遺構調査状況
図版７　鍬の町条里遺構土層
図版８　天童古城東北部山麓調査区土層
図版９　天童古城東北部山麓調査区
図版10　天童古城七日町地区調査状況
図版11　推定大手口調査区
図版12　推定大手口作業状況
図版13　推定大手口Ａトレンチ土層
図版14　推定大手口　Ｂトレンチ　ＥＰ１出土の短刀
図版15　短刀出土状況
図版16　推定大手口　Ｂトレンチピット検出状況
図版17　推定大手口で検出した道路（人物が立っているところが道路の幅）
図版18　推定大手口で検出した側溝のついた道路

報告書抄録

---------- 36

第1図　鍬の町・北目地区遺跡詳細分布調査関連地図

地	遺跡名	時期・内容		地	遺跡名	時期・内容	
1	塚田遺跡	縄文	集落跡	9	千刈遺跡	平安	集落跡
2	鍬の町遺跡	縄文	土器・石器散布地	10	慈眼寺廃寺跡	中世	寺院跡
3	鍬の町条里遺構	奈良・平安	条里遺構	11	善行寺廃寺跡	中世	寺院跡
4	天童古城	南北朝・室町	城跡	12	慈光院廃寺跡	中世	寺院跡
5	綿掛A遺跡	平安	集落跡	13	八幡山墳墓	室町	墳墓
6	綿掛B遺跡	縄文・弥生	集落跡	14	八幡山古墳	古墳	古墳
7	藤田遺跡	奈良	集落跡	15	梨の木陣跡	戦国	陣跡
8	千刈条里遺跡	奈良・平安	条里遺構	16	天童織田館跡	江戸	城館跡
				17	中部小遺跡	平安	集落跡

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至るまで

天童市は、地方分権特例制度（パイロット自治体）を受け、平成６年度から平成12年度までの７か年で、天童市鍬の町・和合北目地区を新市街地整備することになった。その内容は、土地区画整理事業による面的な開発を行うものである。その実施に先立ち、平成５年11月に新市街地整備計画に関する説明会が行われ、天童市教育委員会は、その地域に埋蔵文化財の包蔵地があることを確認した。このため、天童市教育委員会は、事業実施主体である天童市建設部都市計画課と協議を行い、開発予定地について、文化財保護の観点から天童市教育委員会が主体となって、詳細な遺跡分布調査を実施することになった。

天童市教育委員会では、調査について川崎・村山両調査員と、平成６年４月26日に遺跡詳細分布調査の打合せを行い、平成６年５月５日から５月11日までの７日間、発掘調査を実施することにした。なお、本調査は、文化財保護法第５７条に基づく、遺跡分布調査である。

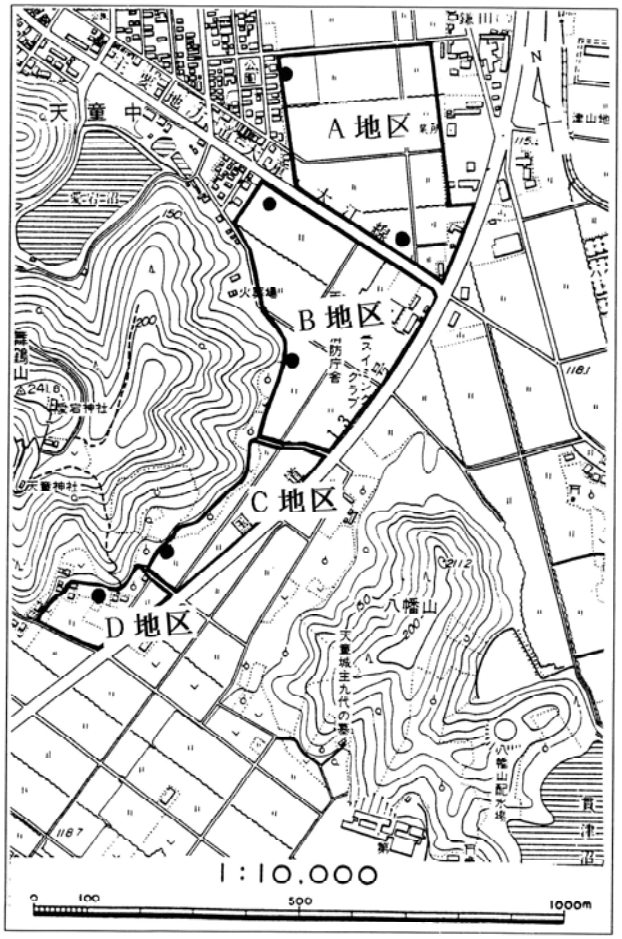
2　調査の方法と課題

本調査は、天童市鍬の町・和合北目地区について埋蔵文化財包蔵地の性格や範囲を明らかにして、緊急発掘調査の必要性を確認することと、緊急発掘調査を実施する場合の基礎資料を得るためのもので、表面調査、ボーリング探査、坪掘り、トレンチ掘りを実施した。

この地区には鍬の町条里（遺跡番号３０３）、鍬の町遺跡（遺跡番号３０４、縄文集落跡）、塚田遺跡（遺跡番号３０５、縄文集落跡）の遺跡の存在が昭和53年刊行『山形県遺跡地図』に記載されており、他に舞鶴山東山麓には七日町など中世を思わせる地名が残り、天童古城（遺跡番号２７０）に関連する諸施設の存在が想定された。

調査にあたっては、対象地区が広範囲に及ぶためにＡ地区（温泉南、鍬の町地区）、Ｂ地区（字和合地区）、Ｃ地区（字七日町地区）、Ｄ地区（北目、天童古城推定大手口）に分けて調査を実施した。

第２図　調査地区設定図及び調査地点(●印)



また、調査の課題として５項目の問題点を設定し、調査を行った。

(1) 縄文集落跡が良好な状態で残存するか。
(2) 鍬の町条里遺構が検出できるか。
(3) 天童古城をめぐる濠があったか。
(4) 七日町地区に中世集落があったと推定されるが、遺構として残存しているか。
(5) 天童古城の推定大手口跡の前面に遺構があるかどうか。

なお、戦後、土地改良事業や圃場整備が行われているために、遺跡のほとんどは破壊消滅したと推定されるが、可能な限り遺跡の確認等に努めた。

3　調査の経過

調査については、天童市建設部都市計画課と、地権者の方々の協力を得て、天童市教育委員会が実施した。今次の調査区は、耕作が行われている場所であるため、調査地点は耕作地を避けて行ったために、試掘面積は最小限にとどめざるを得なかった。また、調査方法については、ボーリング探査及び踏査による調査も併用した。

調査の日程及び調査工程は表１のとおりである。鍬の町条里、天童古城（七日町）、天童古城大手口などについては、手堀りのほかに、　部分的に重機を用いて粗掘りを行った。

調査の結果については、５月24日に遺跡詳細分布調査の結果検討会を行った。調査結果の所見について、教育委員会では、事業実施主体である天童市建設部都市計画課に報告した。

表－１　調査の日程及び調査工程

調査区名	遺跡名	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11
A地区	塚田遺跡	―						埋め戻し
	鍬の町条里				――	――		埋め戻し
B地区	鍬の町遺跡					―		埋め戻し
	天童古城（和合）						――	埋め戻し
C地区	天童古城（七日町）			―				埋め戻し
D地区	天童古城（大手口）		――	――		―		埋め戻し

II　遺跡地名表

1　天童市鍬の町・和合北目地区試掘調査遺跡地名表

遺跡番号	種別	遺跡名	地区	所在地	時期	地目	立地	遺跡の概要	出土遺物	備考
1	集落跡	塚田	A地区	天童市鎌田本町二丁目	縄文	住宅地 畑地	平地	天童温泉地内の土地区画整備以前に畑地で微高地であった。現在は住宅地の下に埋もれている。	石鏃、石小刀 石鏃	遺跡位置変更 県遺跡No.305
2	散布地	鍬の町	B地区	天童市大字天童中12番地ほか	縄文	住宅地 畑地 水田	平地	昭和40年代の農業基盤整備に伴う圃場整備の際に、琵琶畑と称する畑地より縄文土器や石器が出土した。	石鏃	破壊 県遺跡No.304
3	条里遺構	鍬の町条里	C地区	天童市大字山元字鍬の町 天童市大字貫津字和合	奈良 平安	水田	平地	明治21年の字切図に条里制に伴うと思われる地割があり、昭和40年代の圃場整備まで様子がうかがわれた。 範囲は南北120 m×東西180 m		遺跡位置変更 県遺跡No.303
4	城跡	天童古城	B地区	天童市大字貫津字和合	南北朝・室町	山林 畑地 水田	丘陵	天童古城の東郭の東山麓で八日町の旧地名が残されている。		
			C地区	天童市大字北目字七日町		山林 畑地	丘陵	天童古城の東山麓で七日町の旧地名が残されている。		
			D地区	天童市北目四丁目12番		山林 畑地	丘陵	天童古城の推定大手口で、7段の階段状の曲輪があり、今回の調査で道路跡・建物跡が検出された。		県遺跡No.270

2　天童市舞鞘山付近遺跡地名表（鍬の町・和合北目地区を除く）

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地	時期	地目	立地	遺跡の概要	出土遺物	備考
5	集落跡	綿掛A	天童市老野森	平安	住宅地	平地	現在の天童市役所付近から西側に広がり、旧天童警察署跡地から、昭和37年に井戸跡などが検出された。	土師器、須恵器、須恵系土器	昭和37年、赤塚氏調査 県遺跡No.272
6	集落跡	綿掛B	天童市老野森一丁目	縄文 弥生	住宅地	平地	旧天童警察署跡地付近から、昭和41年頃地下1mから、縄文晩期から弥生時代の土器、石器、アメリカ型石鏃が出土した。	縄文土器	県遺跡No.273
7	集落跡	藤田	天童市東本町二丁目13号	奈良	住宅地	平地	現在の中央公園から旧天童警察署跡地周辺である。	土師器	県遺跡No.319
8	条里遺構	千刈条里	天童市泉町一丁目	奈良 平安	住宅地	平地	現金将橋の北側に広がる、南北11町、東西8町にわたる遺構と推定される。	土師器片	県遺跡No.321
9	集落跡	千刈	天童市泉町一丁目3・4番	平安	住宅地	平地	現在の千刈公園の周辺で、竪穴住居跡が確認されている。	須恵器	昭和36年柏倉氏調査 県遺跡No.320
10	寺院跡	慈眼寺（慈光寺）廃寺跡	天童市大字山元	中世	斎場	丘陵	現在天童火葬場の敷地で付近より宝篋印塔の笠部や五輪塔片が出土している。	板碑、宝篋印塔 五輪塔	新規
11	寺院跡	善行寺廃寺跡	天童市大字原町字八幡	中世	山林	丘陵	善行寺が文正元年（1466）まで密教系の寺院として存在していた。	かわらけ 五輪塔	新規
12	寺院跡	慈光院廃寺跡	天童市大字原町字八幡	中世	山林	丘陵	慈光院跡で、現在の山形市宮町ある慈光寺に合寺する前の寺院があったところと伝えられ、井戸跡の遺構が存在する。		新規
13	墳墓	八幡山墳墓	天童市大字北目107-58	室町	山林	丘陵	中世末から江戸初期頃の五輪塔と天童・最上合戦の戦死者の墓碑がある。	五輪塔	県遺跡No.269
14	古墳	八幡山古墳	天童市大字原町字八幡	古墳	山林	丘陵	昭和21年4月、果樹園を開く際に平石を長方形に組み合わせた箱式石棺が発見された。	石棺	県遺跡No.268
15	陣跡	梨の木陣跡	天童市大字原町50番地ほか	戦国	水田	平地	天正12年最上との合戦の際、天童氏の本陣が置れた場所で梨の木清水から水が湧き付近からかわらけや土器等が採取された。	かわらけ	新規
16	城館跡	天童織田館跡	天童市田鶴町	江戸	住宅地	平地	文政12(1829)年～天保2年(1831)年、天童藩主織田信美の築城。明治元年まで存続した。		昭和63年北郭発掘調査 天童市教育委員会 県遺跡No.271
17	集落跡	中部小	天童市老野森二丁目6番	平安	住宅地	平地	天童中部小学校から農業センター付近にかけ、土師器・須恵器が出土した。	土師器 須恵器	新規

Ⅲ　試　掘　調　査　の　概　要

（Ａ地区）

１　塚田遺跡

所在地　　天童市鎌田本町二丁目８番地

調査地点　天童市大字貫津字鍬の町２５７６番地

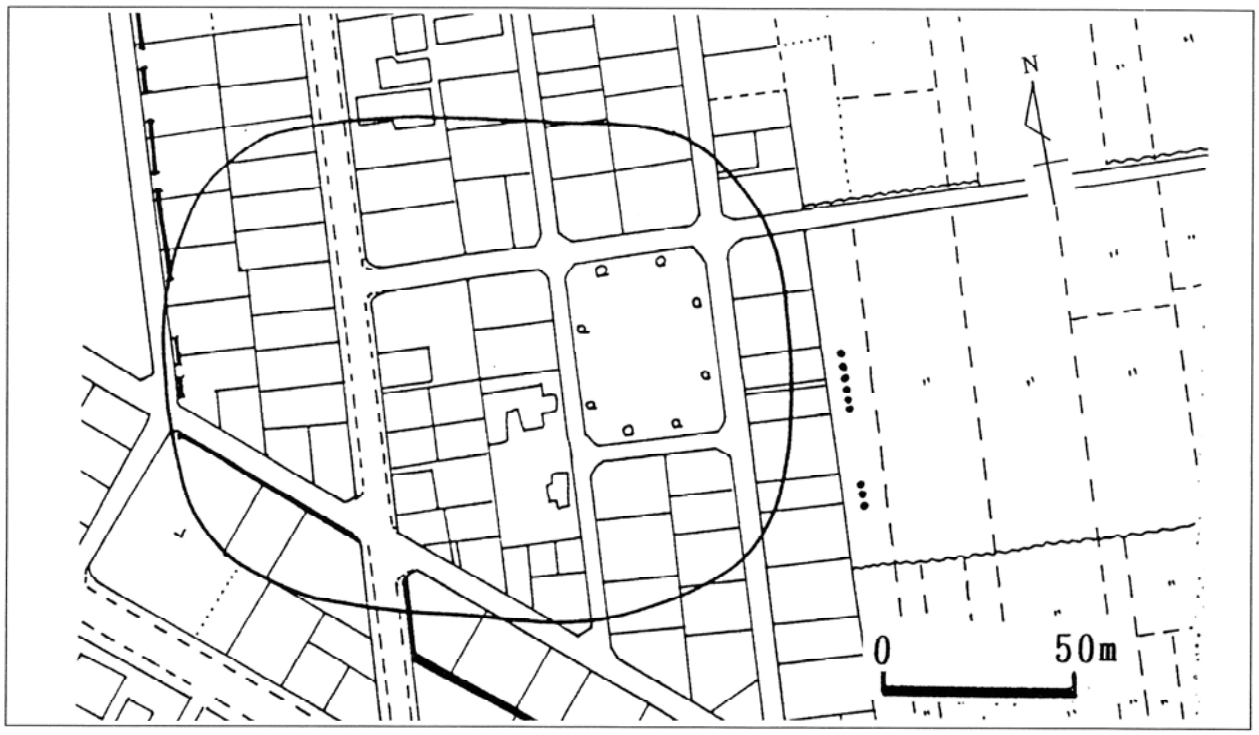
遺跡の概要

本遺跡は舞鶴山の北、天童温泉街の南約500 ｍに位置する。昭和49年の遺跡分布調査時には、水田と畑地との接する畑地でやや小高いところから、縄文時代の土器や石器が採集されている。

現況は住宅地となっており、鍬の町公園として残されている部分を除けば、遺跡は破壊されていると推定される。今次の調査地点は、水田を埋め立てて畑地にしているところである。

調査は、９地点の試掘ピットを設定し、深さ30㎝～50㎝掘り下げたが、遺構・遺物とも検出できなかった。したがって、遺跡の中心部分は、調査地点より西方100 ｍのところであって、今次の調査地点は、遺跡の範囲外であったものと考えられる。なお、調査地点が限定されていたことから、開発にあたっては立合調査等の対応が必要である。

第３図　塚田遺跡試掘ピット配置図



2　鍬の町条里遺構

所在地　　天童市大字貫津字鍬の町

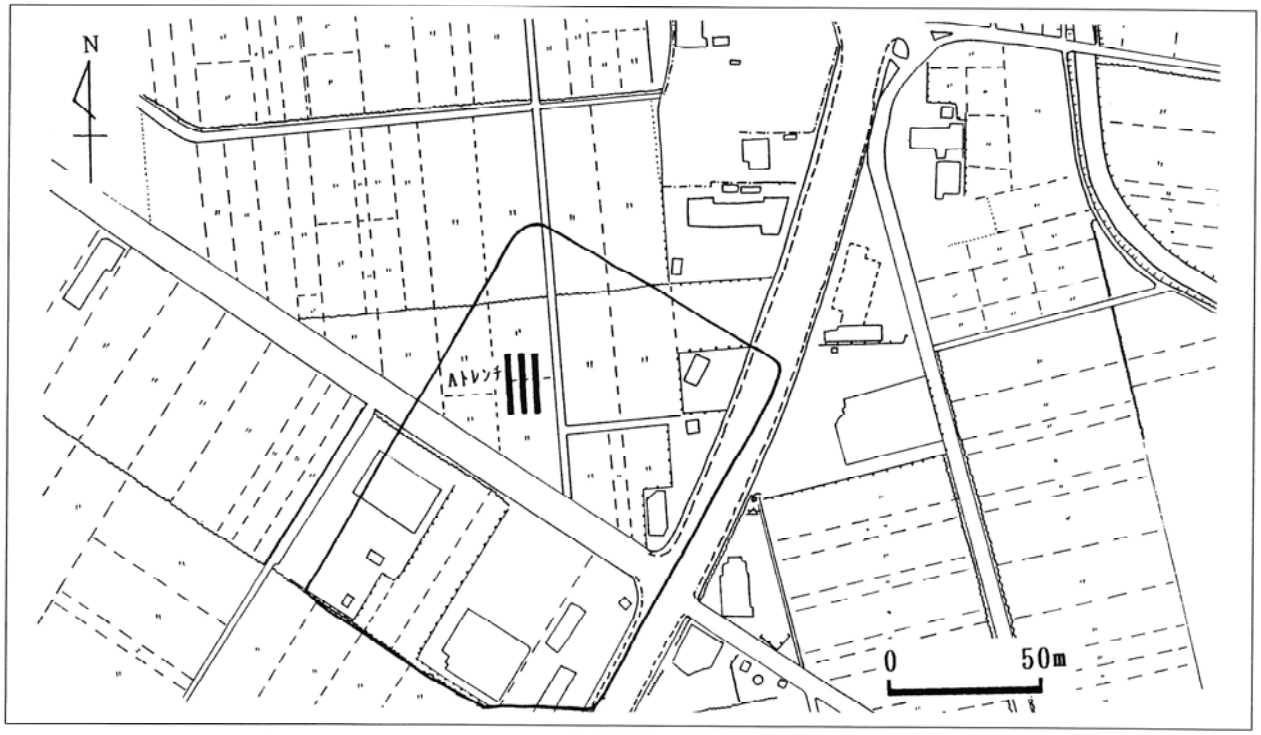
調査地点　天童市大字貫津字鍬の町２５３３～２５３５番地

遺跡の概要

本遺跡は、舞鶴山の東、天童温泉の南に広がる水田地帯に位置し、標高114 mを測る。主要地方道天童・大江線をはさんで南北の水田がある。明治21年10月作成の地積図及びＧＨＱが撮影した航空写真には、水田区画の存在が認められる。条里制による水田区画は、南北120 m×東西180 mと、南北に長い長地式の地割りで16枚の水田区画がみられる。坪割りについては、地積図では明確でない。遺跡の保存状態については、昭和40年、昭和44年の土地改良・圃場整備事業と国道13号線拡幅工事によって削平された形跡もうかがえる。トレンチによる試掘調査のため、現況の水田下に、どの程度遺構が残存しているかは不明である。

今次の調査では、条里制による水田区画が、どの程度残存しているかに主眼をおいて、遺構が残存する可能性がある。天童市消防署北側の水田に南北20ｍ×東西1.5 mのトレンチを３本設定し、条里水田の畦畔及び用水路の検出に努めた。現畦畔の下層に少しずれて旧畦畔の痕跡を確認したが、地積図の畦畔より70㎝ずれており、遺物も出土していないため、条里制に伴うものかどうかの時期は特定できない。また、土層の状態や付近の水田の土層状態から考えれば、数回の倉津川の氾濫による砂利の存在が土層で確認できず、現水田耕作面よ

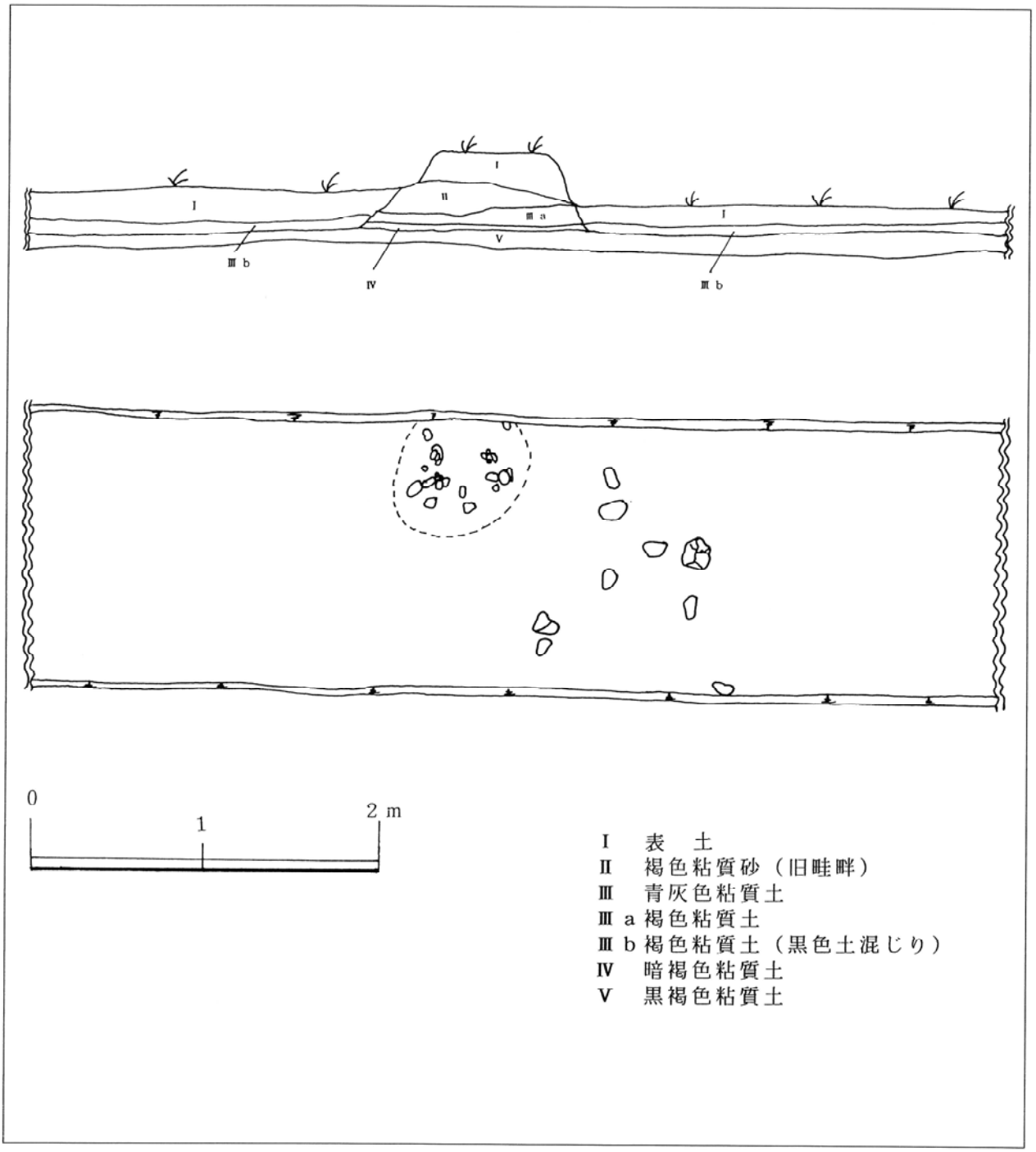
第４図　鍬の町条里遺構トレンチ配置図



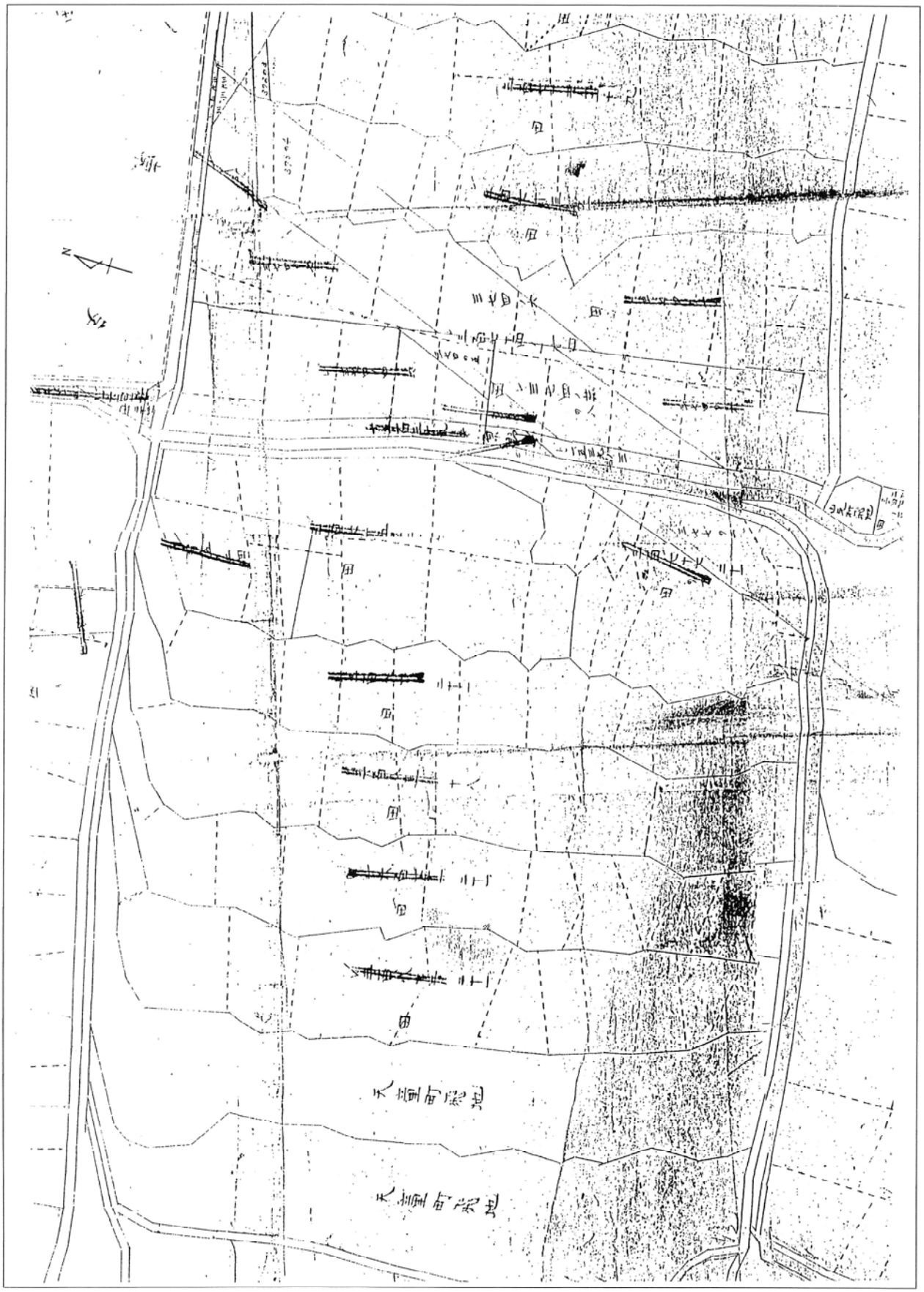
り35㎝下層は、淡青灰色の粘土層となるため、圃場整備等によって破壊され、消滅してしまったと推察される。その他の地点は、天童スイミングクラブ敷地となっており、現在耕作されている水田は南北に長い30ａ（１反歩）１枚の水田区画で、東西の段差が大きく、遺構の検出は、できないと考えられる。

天童市内には、この他に千刈条里遺構、小千刈条里遺構、成生三条条里遺構、高擶礼井戸条里遺構の痕跡が明治21年作図の地積図によって確認される。

第５図　鍬の町条里遺構　Ａトレンチ土層断面図及び平面図



第６図　鍬の町条里遺構地積図



（B地区）

3　鍬の町遺跡

所在地　　天童市大字貫津字鍬の町

調査地点　天童市大字貫津字鍬の町

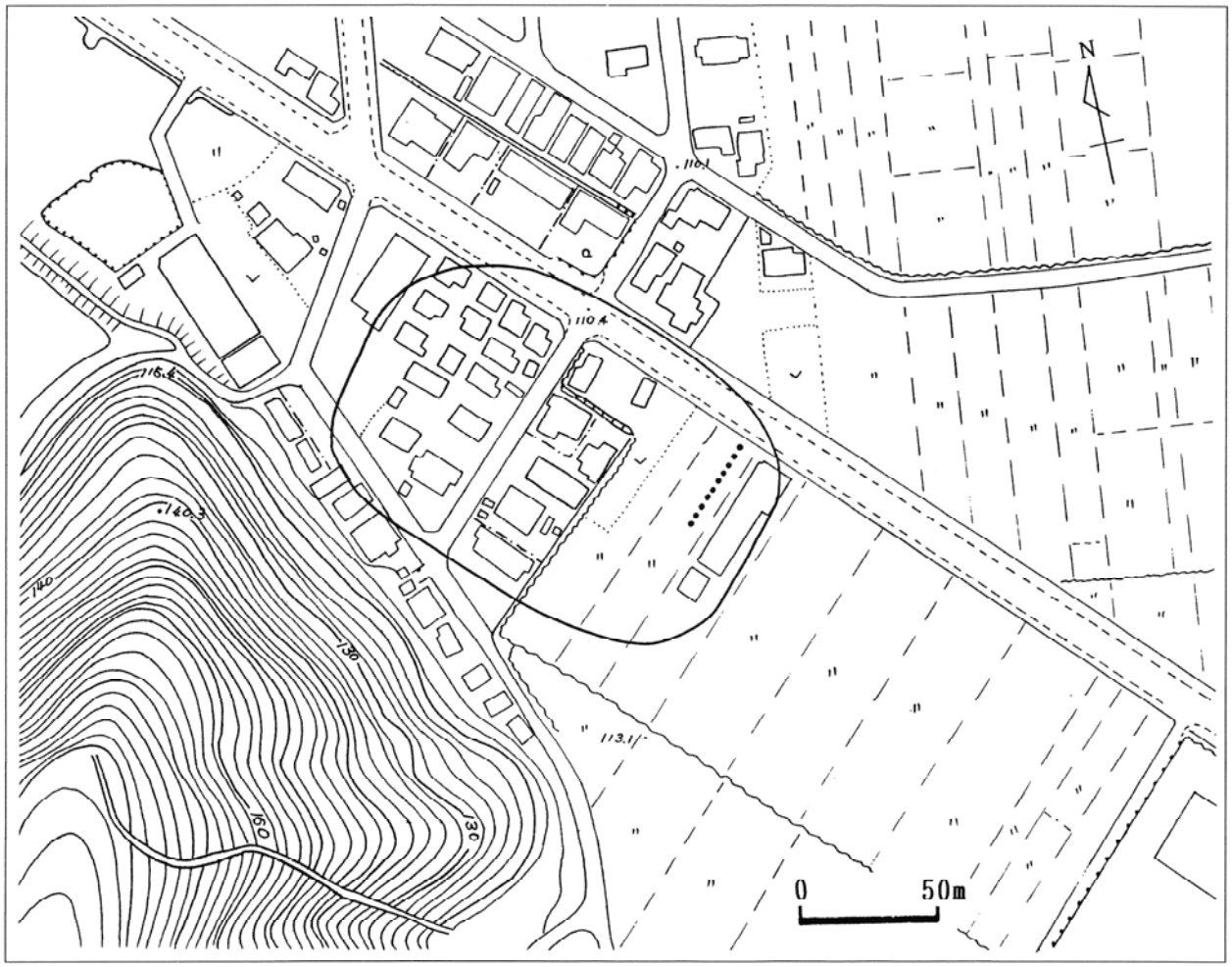
遺跡の概要

本遺跡は、舞鶴山東山裾の旧畑地に広がる。現在は住宅地・水田となっているが、以前は畑地で、「びわ畑」と呼ばれていた地点である。標高110 m前後で、畑地を開墾した際に遺物が出土したといわれる。その後、水田として利用され、圃場整備などにより全面破壊されたと推察される。

今次の調査は、開発予定地の栄春堂西側の休耕田に10ヶ所のテストピット（1m×1m）を設定し、手堀りによって坪掘りを行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

なお、昭和50年の分布調査では、この地から出土した石器を保管していた人がいた、との記録があるが、現在は不明である。

第7図　鍬の町遺跡試掘ピット配置図



4　天童古城東北部山麓

調査地点　天童市大字貫津字和合

調査の概要

今次の調査では、天童古城に濠が存在したかどうか、天童古城の東山麓に中世の集落が存在したかに主眼をおいて発掘調査を実施した。

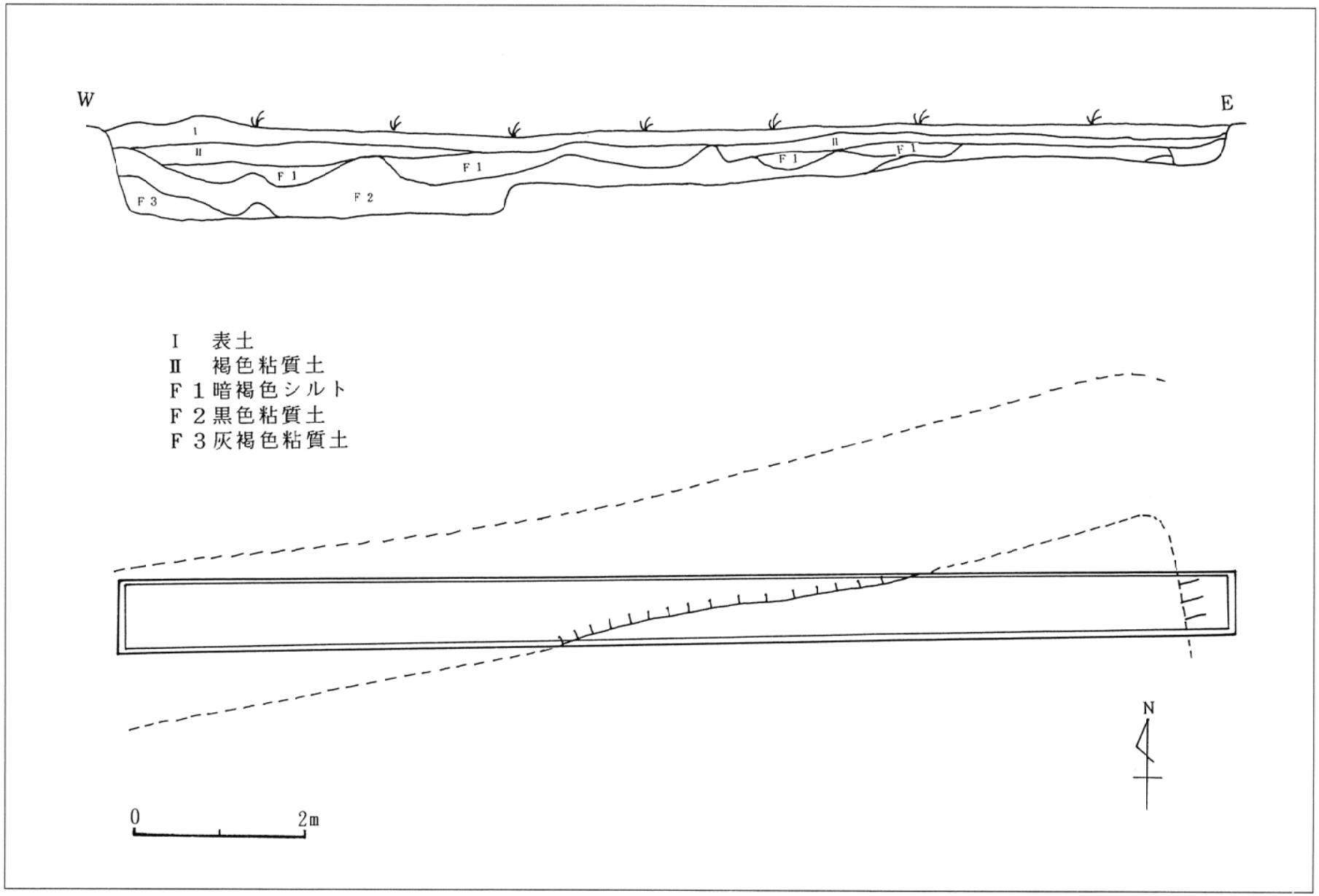
Ａ地点では舞鶴山山裾部の水田に、東西方向に12.7ｍ×0.4 ｍのトレンチ２本を入れ濠の検出を行った結果、Ｂ地区Ａトレンチより幅２ｍ、最深部1.8 ｍ、長さ12ｍほどの溝を検出した。確認された土層は、第２層の褐色粘質土の下層で、掘り込みの溝状遺構を確認し、東方向へ延び、東北端で南へほぼ直角に屈曲することがわかった。しかし、これが屋敷跡などに伴う溝なのか、用水路なのかは、確認ができなかった。また、遺物の出土がなく、時期の特定までは到らなかった。

伝承や地元の人の話では、Ａトレンチ付近に、東根市沼沢館主の沼沢伊賀守が、天正12年の天童・最上合戦頃に館を築いたと伝えられているという。

舞鶴山山裾部から国道13号線までの区域にわたって、ボーリング棒による探査を行った結果、濠跡などの遺構、遺物の存在は発見できなかった。この探査で、ほぼ中間部に幅30～50㎝の直線状に伸びる溝とみられるものを発見したが、それは山寺方面から引いている天童堰の旧堰跡であることが確認できた。

第８図　天童古城東北部山麓トレンチ配置図

第９図　天童古城東北部山麓　Ａトレンチ土層断面図及び平面図



（Ｃ地区）

５　天童古城　七日町

調査地点　天童市大字北目字七日町

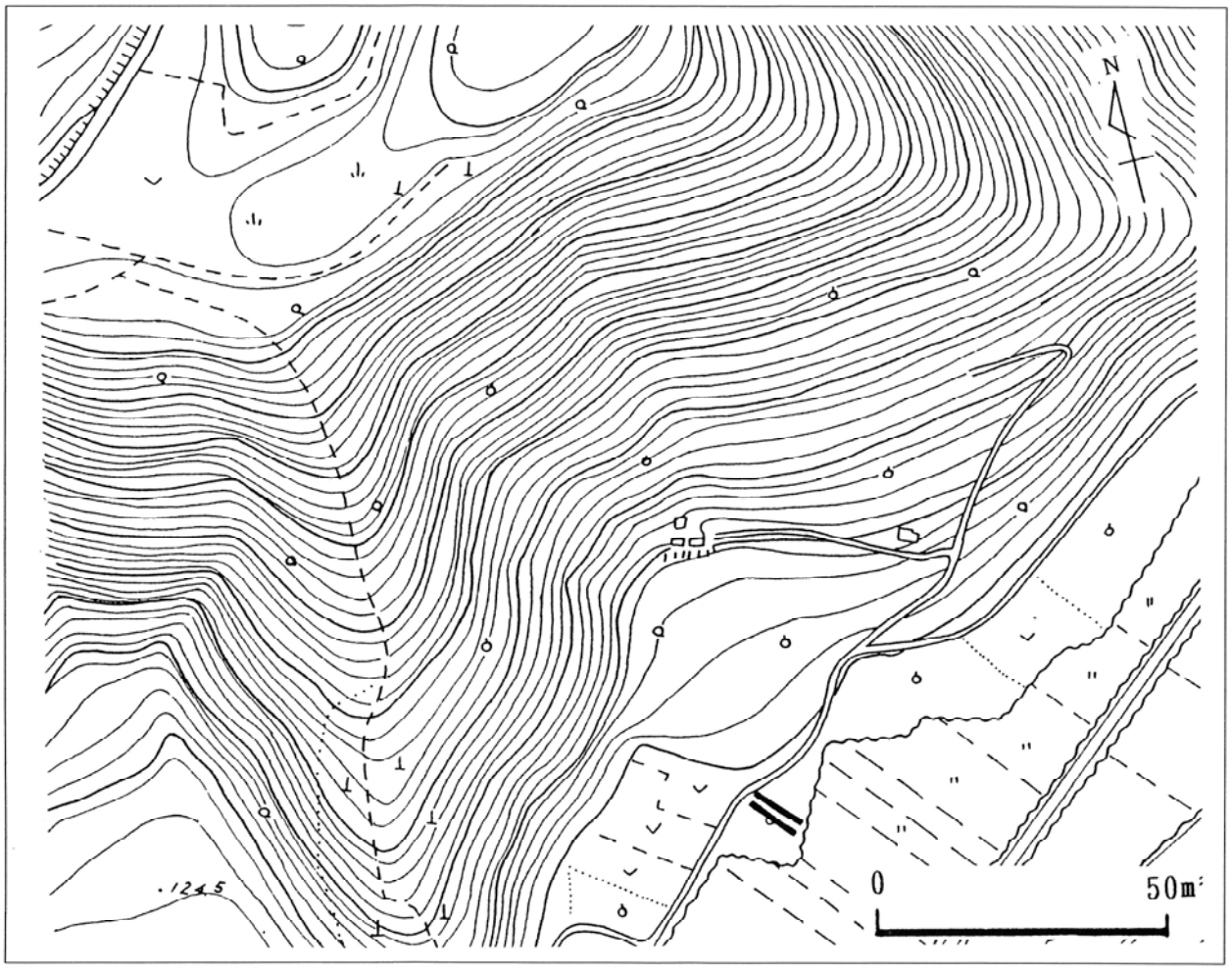
調査の概要

山裾に近い耕運前の畑地に、東西10ｍ×南北１ｍのトレンチ２本を設定し、発掘調査実施した。天童古城に関する曲輪の一部の確認、壕跡の有無の確認をする目的で、発掘調査を実施した。

その結果、調査地点は、現在の水田より高く山裾の曲輪の端を思わせたが、遺構・遺物の検出はできなかった。土層層序の確認の結果、後世になってから、畑地に水田の土を盛りあげたものと判明した。壕跡の痕跡の発見には到らなかった。

七日町の水田にも試掘穴を設定する予定であったが、耕作中であり調査不可能であった。付近より遺物採集、出土の事例はないが、七日町の地名は市日商業の名残りであろう。

第10図　天童古城　七日町地区トレンチ配置図



（D地区）

6　天童古城　推定大手口

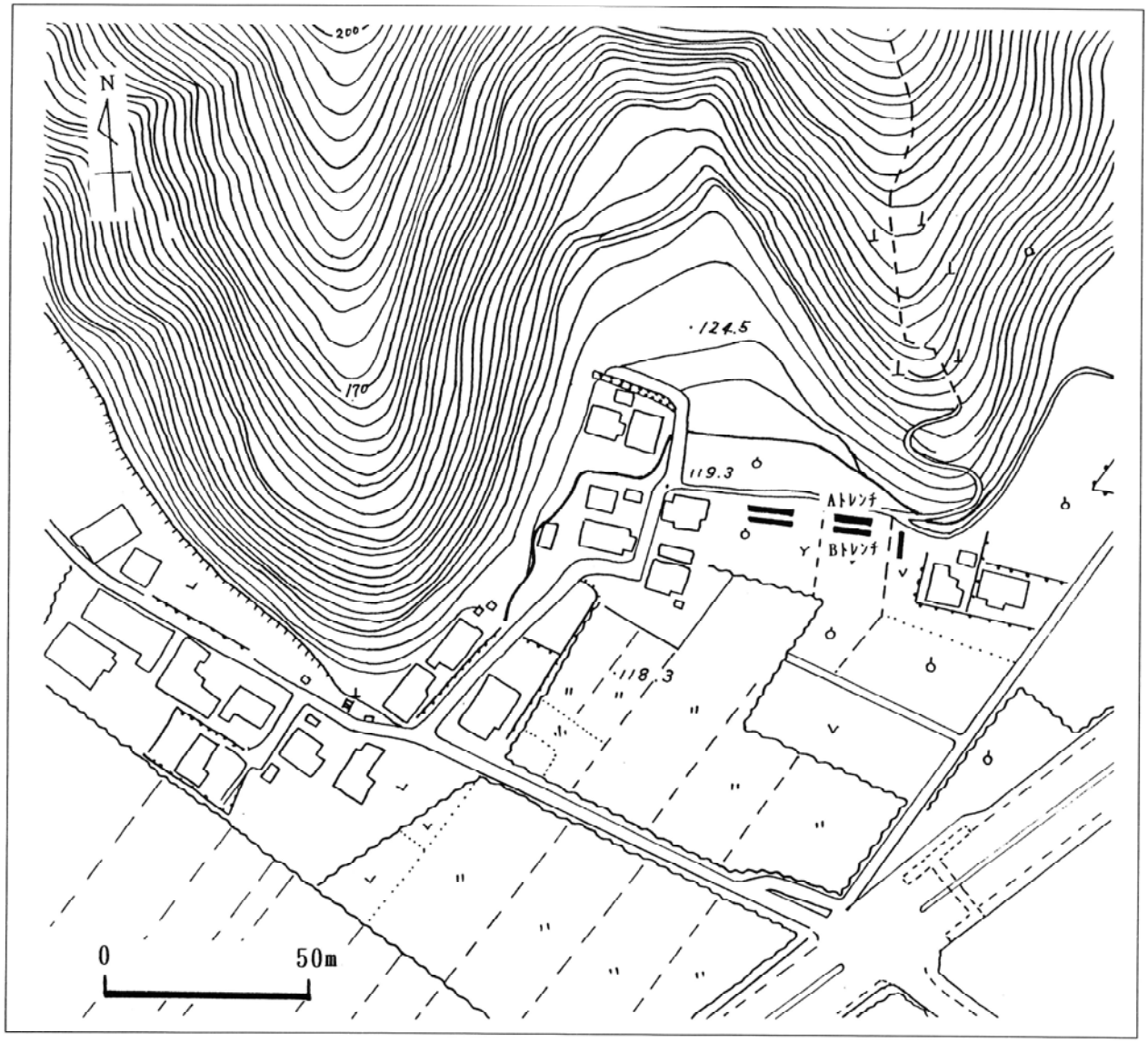
調査地点　天童市北目四丁目２番，字七日町

調査の概要

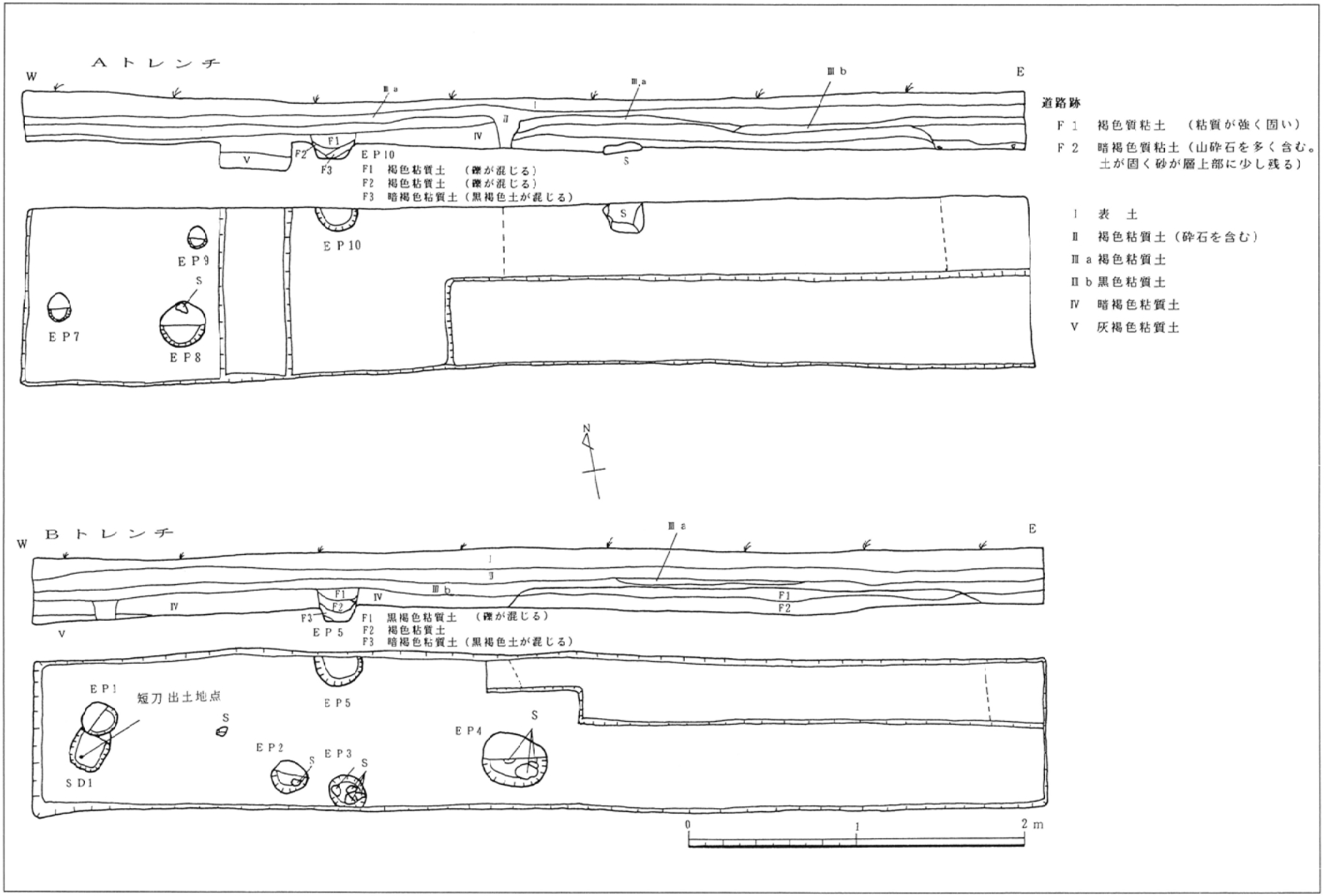
(1)　調査位置

推定大手口は、舞鶴山の南東山裾部に位置し、左右に尾根が南に伸び開けた台地である。向かって右の尾根は現在、北目墓地となっているが、昔、源治峯と呼ばれた場所である。向かって左の尾根は、江戸時代愛宕神社の祭礼の時に、門前村の庶民が登った峯であった。平成２年に調査した際に大手口と推定した場所である。

第11図　天童古城　推定大手口トレンチ配置図



第12図　天童古城推定大手口Ａトレンチ・Ｂトレンチ土層断面図及び平面図



(2) 遺構調査結果

今次の調査は、推定大手口前面に、東西10ｍ×南北1.5 ｍのトレンチを４本設定し、北目墓地の登り口前面に、東西７ｍ×南北1.5 ｍの計５本のトレンチを設けた。そのうち、Ｄ地区Ａ・Ｂトレンチにおいて、大手口に向かうと思われる幅3.7 ｍ（約２間）の道路跡を検出した。道路跡はⅢ層下面より土質が硬く、スコップでもなかなか掘り込むのに困難であった。土色、土質的にも柱穴の検出されたものと異なり、山砂利をシルト土に混合し整地・地固めを行い、砂を敷いた様子が確認されたことから道路跡であろうと考えられる。またＡトレンチとＢトレンチ両方の土層及び平面の状態でつながりがある道路で、推定大手口の向かって右の山裾へ続くと思われる。中世後期には横街道が主要道であったといわれることから、天正12年の合戦の際に天童氏が本陣を置いた梨の木清水で横街道から分岐した道が八幡山西の三瓶坂へ続き、大手口に分岐する道路があったものと推定される。

道路跡の西面から柱穴９基を検出し、道路を造る以前に根石を伴う掘立柱柱穴がＡトレンチで１基、Ｂトレンチで３基を検出した。根石を伴う柱穴はⅣａ層の中間層位から掘り込んでおり、ＥＰ４の上へ道路の端がくるものと思われ、道路跡より古い時期のものであると考えられる。その他の柱穴は根石を伴わず、Ⅲ層下層より掘り込んでいる。ＥＰ５、ＥＰ10はセクションベルトの土層で明確である。したがって、根石を伴う柱穴の方が古いと考えられる。ＥＰ８は根石があると考えられたが、石が浮いていることからＥＰ５、ＥＰ10と同時期と思われる。そのように考えた場合、ＥＰ５、ＥＰ８、ＥＰ10で１棟の建物跡が想定される。なお、柱穴には炭化物が含まれている。

ＳＫ１とした50ｍ×30㎝の長円形の土壙中に、刀身を上に茎を下に立てたような様子で短刀刀身が出土した。ＳＫ１は、道路跡び根石を伴わない時期と土層の状態からほぼ同時期と考えていいと思われる。また、粗掘りの際に両黒土器の小片がⅢ層下よりＡトレンチを掘り下げた時に出土している。

時期的には古い順から根石を伴う柱穴→根石を伴わない柱穴→短刀の出土したＳＫ１、道路跡と３期の時期が考えられる。

推定大手口前面には道路の他、建物遺構があったことが判明した。

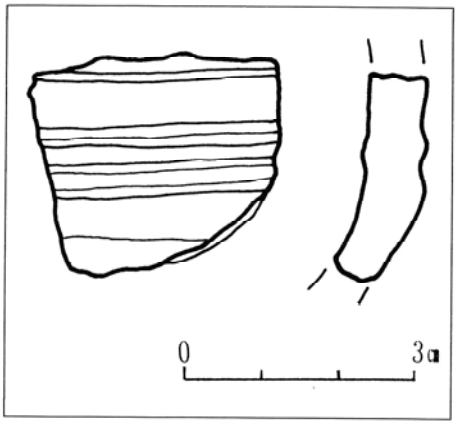
(3) 遺物

今次の調査では、３点の遺物のみの出土であったため詳細不明な点が多い。

①両黒土器

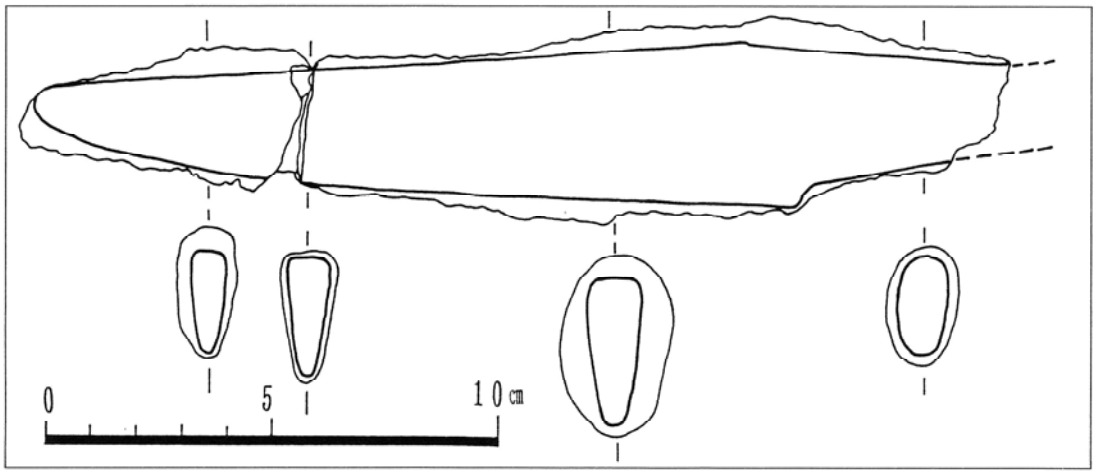
口縁部の破片１点である。口径14㎝（推定）の坏で、Ａトレンチ Ⅲ層下位から出土しており、外面にロクロ痕がみられる。

第13図　両黒土器実測図



②短刀刀身

第14図　短刀刀身実測図



短刀刀身の出土状況は、ＳＫ１につき刺して刀身を上へ向けた状態で出土している。現存長21㎝の短刀刀身で、厚さ１㎝、幅３㎝、推定柄長は７㎝程度のものであろう。錆が著しく、全体の状態を把握するためレントゲン透過撮影を行った結果、柄には木質部が遺存しており、短刀全身のある程度の推定が可能であった。鉄刀で実用的な短刀であったろう。

③金あわ

製鉄時に生じてくる金あわの小片がⅢ層下位から出土している。付近に製鉄の遺構があるものと考えられる。

(4)　まとめ

天童古城は、天授元年（1375）に斯波兼頼の孫頼直が入城した場所だといわれる。今次試掘調査したところは、推定大手口であり、何らかの遺構の存在がうかがわれる。以前大手口とされていた四十二曲の登り口は、やや東北部の山裾で古道の痕跡があり、天童古城主郭へ通ずるが、大手口としての曲輪を主体とした遺構の存在はみられず、大手口とすることに対し疑問があった。

推定大手口のところは、天童神社よりへ通じていたと考えられるが、曲輪の最上段からやや急な斜面になっている。江戸時代中期・末期の舞鶴山の古絵図などでみると、古道らしきものは、天童北目墓地より横街道へ通じる道の存在と山裾を回る古道が存在することは認められる。しかし、古絵図に、調査で確認された南北へ伸びる古道は存在しない。そうすると、江戸時代でも古い時期か、それ以前の古道であったと考えられる。

その道路跡は、推定大手口の東端山裾、北目墓地の尾根下につながっており、天正12年（1584）天童・最上合戦時には存在した、大手口へ通じる道路であろうと推察される。

掘立柱の建物跡はＡ・Ｂトレンチの２本で確認されただけで、規模は不明である。時期的にはⅡ期が考えられ、根石を伴う柱穴の建物跡と掘立柱の建物跡が考えられるが、遺物の出土がないため、年代の推定はできない。

IV　天童古城について

今回実施した鍬の町・和合北目地区遺跡詳細分布調査において、B地区、D地区で検出された遺構は、舞鶴山に築かれた天童古城との関連があり、今後、舞鶴山公園整備事業が進められようが、整備していく上での参考のために、本調査において調査された天童古城の一部について報告しておきたい。縄張り図については、舞鶴山東山麓のみ報告する。その他については、『天童の城と館』を参照されたい。

第15図　天童古城縄張図

1　天童古場の概観

舞鶴山、八幡山、越王山は出羽の三ッ森と呼ばれて昔から人々に親しまれてきた。出羽の三ッ森は、かつて奥羽山脈と続く丘陵であった。おおよそ200 万年前の第四紀に始まる奥羽山系を主体とした火山活動によって断層活動が行われ、山地が切り離され浸食を受けて、現在のような独立した丘陵になった。舞鶴山頂の愛宕神社（天童古城の主郭）境内から望めば山形盆地全体を一望にできる。北は村山市袖崎、南は山形市南西部、西は最上川を望み寒河江まで望むことができ、月山や村山葉山、出羽山地が美しく眺められる。

舞鶴山は、南北朝時代に南朝方の北畠天童丸という人が、天童神社（天童殿）付近に立てこもって、北朝方の斯波氏と争ったと伝えられている。北畠氏は南朝勢力が衰えるとともに、北の青森県津軽浪岡へ逃れたというが、天童丸については確かな資料はない。

その後、斯波兼頼の孫である頼直が、成生里見氏に入嗣したが、天授元年（1375）に本拠地成生より天童へ移り、舞鶴山に城を築いたという。頼直より頼久まで10代にわたり居城としてきたが、天正12年（1584）10月に山形城主最上義光との合戦で落城する。

天童頼直によって築城された天童古城は、山頂部の主郭を中心に、東西に走る支脈の丘頂部には曲輪が数段～数十段にも築かれ、三方は自然面を残す急峻な崖をなしている。また、山麓傾斜転換線より上にも、数段にわたる曲輪がみられる。主要な箇所には石組みの深い井戸が残され、村山地方では古い形態の山城で、保存状態もやや良い城館跡である。大手口は東に設けられ、搦手は西に設けられたと考えられる。

舞鶴山を囲むようなかたちで城下町集落が形成されたと考えられ、東側には今も七日町などの地名が残り、西には小路の地名も残り、前者は市日商業などが行われた名残りであり、後者は侍小路からきたものであろう。寺院の配置は、搦手に成生から仏向寺を移し、現在天童火葬場のところの北側に慈眼寺又は慈光寺が置かれた。八幡山西麓には２箇所の廃寺跡と思われる平坦なところがあり、昔から寺屋敷と呼ばれている。

天童古城は、永正17年（1520）置賜の領主伊達稙宗が、村山諸城を攻略したときも破ることができなかった堅固な山城で、現在の舞鶴山全体が城塞であった。

2　天童古城の曲輪と諸遺構について

ここでは『天童の城と館』が発行された後に発見した場所と、今回の遺跡分布調査で発見した曲輪や諸遺構について述べておきたい。

(1)　東　郭

愛宕沼の東の峯で、昔、太鼓山あるいはサタケ山と呼ばれた舞鶴山の支脈にある。30数段からなる帯曲輪は、見事な段状の曲輪列である。郭の中心となる平坦な部分が２か所あり、何らかの建物遺構があったと考えられる。曲輪は、天童古城の主郭となる愛宕神社の東に広がる帯曲輪と続くものと思われる。虎口は南東部にあったと考えられ、主郭から細い小道が藪の中を通って東郭の中心部につながっている。主郭と東郭との接する尾根に落

ち込みがあり空濠と考えられる。

(2)　和合地区八日町の曲輪

舞鶴山東山麓の傾斜転換線の上部に２段の帯曲輪が入り込むような形に残っている。東郭より下部にあった帯曲輪の一部であろうか。

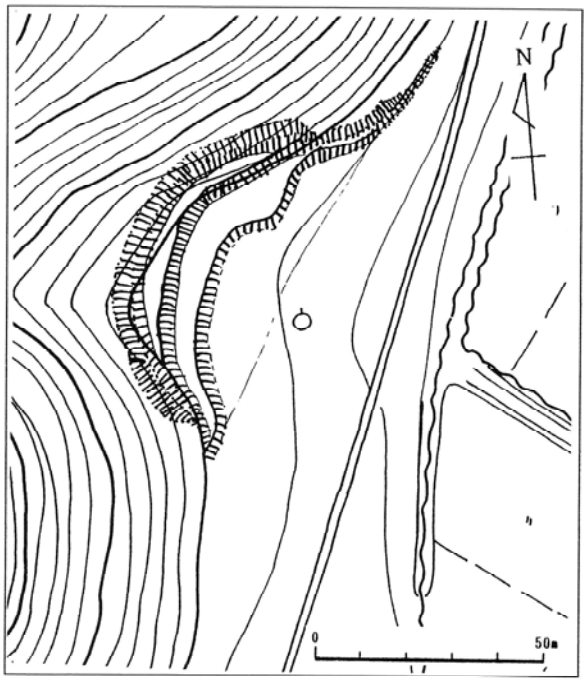
(3)　和合地区七日町の曲輪

舞鶴山東部に位置し、平地部に向かって喰い違い段違いの曲輪が11段残り、平地部の山裾を通る道路が分岐するところで、分岐した道は１本は山裾を通り、１本は横街道に続き、博打石と呼ばれるところへ続いている。最上に向かって曲輪が狭くなり、最上段の背後は傾斜の急な斜面となり、登りつめると東郭の中心部に至り、主郭の曲輪へと続く。

南側と北側の曲輪が横矢掛を果たすかのように見られる良好な防禦施設をもつ登り口で、後述する推定大手口の曲輪に次ぐ防禦施設をもつ。

曲輪の前面、八幡山西山麓には寺院跡があり、天童古城の全体像を考える上での虎口として重要な位置にある、と思われる。

第16図　和合地区八日町縄張図



第17図　和合地区七日町縄張図

(4)　北目地区七日町の曲輪

舞鶴山東山裾の曲輪の築造は、山懐に抱かれたような入り組んだところに造るという特色がある。これに対し西側山裾では、尾根に張り出したところに曲輪を多く造るという特色がある。

北目地区七日町曲輪は、北目墓地の尾根に連なる帯曲輪の一部で、２段の腰曲輪である。(2)の八日町の曲輪と同様に、小さなもので２か所で発見されている。

(5)　推定大手口の曲輪

推定大手口は、舞鶴山南東部の左右の尾根が伸びる入り組んだ台地にある。前面には天正12年の合戦時に陣が置かれた梨木清水がある。山頂に向かって右側は北目墓地となっており、護摩壇、源治峯などの地名が残る。山懐から平坦部へ向かって７段の曲輪が設けられている。階段状に並行する曲輪列の背後に、直交する縦長の細長い腰曲輪が走り、横矢掛の機能を果たすように思われる。最上階の曲輪は平坦で、その背後は、傾斜の急な斜面となり、登りつめると天童神社付近の曲輪に達する。良好な防禦施設をもつ登り口であり、前述した和合七日町の曲輪と同様な形態で、本曲輪の方が喰い違い、段違いがなく、各段の曲輪とも平坦な部分が広い。

第18図　推定大手口縄張図

3　ま　と　め

天童古城の現況は、戦国末期の天正年間の様子を示すものである。当時における天童氏は東村山、北村山一帯に勢力をもち、反最上勢力の拠点となたのが天童古城であったろう。城の山裾には家臣の屋敷や町屋があって、城を取り囲むような形で城下町を形成していた。と推察される。

天童古城の特徴としては、山頂部の主郭から四方にのびる支脈の尾根に、それぞれ曲輪と郭を有し、尾根の頂上には広く平坦な郭と、虎口が独立して存在する。人間将棋が行われる公園については、尾根の頂上部が改変されているが全体的に保存状況が良く、原形をとどめている。また、各部には井戸があり、旧地名なども良好な状態で残されている。築城に際しては、尾根や緩斜面、入り組んだところに階段状の曲輪を構築するが、空濠や土塁が乏しい。戦国時代に築城された山城よりも古い時期から整備されたものと推察される。天童古城の弱点は、各尾根の郭を結ぶ連絡路があり、曲輪を主体としていたため、全体がまとまると堅固な城であるが、１か所が崩れれば、全体が一時に崩れるという構造であった。合戦で城域に侵入されれば、陥落しやすいと思われる。

天童古城は天童市の中心的な位置にあり、村山地方一円が一望できる舞鶴山は、戦国時代にどうしても押さえなければならない要衝の地であったろう。そして、天正12年の対最上合戦の際に、天童市より北部の反最上の国人領主や土豪らが結集した、山形県でも重要な城郭であるといえよう。

Ⅴ　まとめと今後の課題

今次の遺跡詳細分布調査は、開発に係る鍬の町・和合北目地区を中心に行ったが、この地区は、天童古城東山麓一帯であるため、昭和５３年刊行の山形県遺跡地図に記載された３か所のほか、天童古城に関連するものにポイントを置いて行った。しかし、現在耕作している田畑であるために、調査上の制約があり、調査で知り得た情報は、一部分である。調査の方法も表面踏査、小試掘を中心とした分布調査であった。

山形県遺跡地図に記載された３遺跡は、地図に表示の遺跡範囲を調査しても、遺構・遺物の出土、遺物の包含層も確認できず、遺跡地図記載の範囲に、ずれや錯誤が感じられる。調査をおこなった場所の一部では圃場整備等が行われ、遺跡地図作成時とは立地、地目とも異なっており、遺跡・遺構がどの程度残されているかわからないが、可能なかぎり遺跡の確認作業に努めた。

１　まとめ

ここで、調査を行うにあたり、想定した５つの課題を中心としてまとめておきたい。

(1)　縄文集落跡の塚田遺跡は、遺跡地図記載の位置より西側へ遺跡範囲の端部があり、鍬の町公園よりも西側の現住宅地にあると考えられ、遺跡は、今次の調査区内まで及んでいない。現況が水田の鍬の町遺跡は、昔は琵琶畑という琵琶の形をした畑地で、遺物包含層が畑地から水田に地目が変更されたため、土地改良時に、遺跡は、破壊され消滅したものと思われる。

(2)　鍬の町条里遺構については、地積図等で確認できる畦畔を中心として調査したが、戦後２回に及ぶ圃場整備等の開発行為によって削平されており、条里遺構は検出できなかった。遺物の出土もなかったために、破壊された部分が多いと思われる。なお、調査できる地点が限られており、全体的な広がりは不明である。

(3)　天童古城を巡る濠跡については、Ｂ地区、Ｃ地区にトレンチを入れ確認を行い、その他にもトレントを入れ、調査不可能なところはボーリング棒で調査を行った。その結果、天童古城東山麓付近には、舞鶴山より流れる沢水を集める程度の水路があったと思われる。が、濠跡の確認はできなかった。なお、渡辺克司氏による総構えの城下町を囲むような濠もなかったと思われる。渡辺説による城下町を囲むような南北の濠は、山寺に水源を発する天童堰の旧堰が流れていたところであり、堰の幅も６０㎝程度のものである。年代的にも天童古城との関連制は考えにくい。

(4)　舞鶴山と八幡山との間に中世の主要道と考えられる横街道が山形から東根へのび、七日町地区に七日町、和合地区に八日町、十日町等の中世集落あるいは市日商業の名残りの地名が残っている。今次の調査では、田圃は耕作中であり、試掘調査不可能であった。耕作者からの聞き取りでは、土器類などの遺物は、採取していないということである。なお、Ｂ地区の舞鶴山東山麓よりコ字形になると思われる幅２ｍ前後の溝跡が検出され、天童古

城に関連する武士の屋敷に伴うものであることが考えられる。

しかし、トレンチにかかった部分のみの確認となったため、屋敷に伴う濠跡なのか、水田に伴う用水路なのか不明であり、遺物の出土がないために、年代も不明である。

(5) 天童古城の推定大手口前面では、江戸時代の古地図に記載がない古い道路跡と根石を伴う柱穴、掘立柱穴の遺構が検出された。Bトレンチの土壌からは、短刀刀身が突き刺して埋めたような状態で出土した。推定大手口前面には、横街道から分岐し大手口に続く道路があり、それ以前に建築跡が存在していたことが確認された。時期的にはⅡ～Ⅲ期の時期差が想定される。

(6) 今次の調査の際に、舞鶴山東、和合、七日町地区の舞鶴山傾斜転換線上より上部に曲輪があることが判り、縄張り図作成のため調査を実施した。

2 今後の課題

今次の調査結果に基づき、開発事業を推進するにあたって次のような事項に留意すべきものと考えられる。

(1) 調査にはいろいろな制約があり、開発計画地区全般に及ぶものでなかった。したがって、開発工事中に遺構や遺物の発見も予想されるので、慎重に工事を進めていただき、万一、発見された時には、早急に発掘調査を行い記録保存をする必要がある。

(2) 遺構、遺物の検出を見たB地区（和合地区）、D地区（北目、天童古城推定大手門口前面）については、開発にあたって発掘調査の必要性があり、関係機関と協議を行い対処されたい。特にD地区については、舞鶴山公園一帯の整備事業との関連もあり、正確に調査を行い、場合によっては保存を行う必要があり、発掘調査に要する調査面積は、B地区で約１５００㎡、D地区では約１０００㎡が必要である。

(3) 舞鶴山山麓及び付近一帯は、天童古城に伴う遺跡が多く、出羽三ツ森を含む範囲で保存整備を行うように心掛け、将来は天童市の中心的な歴史的整備を行うよう希望する。また、発掘を伴う開発は、できうるかぎり避けるべきである。

(4) この地域全般については、開発を行う場合には事前に調査を行い、記録保存及び現状保存を必要とする。

＜参考・引用文献＞

1，柏倉亮吉「東北地方の条里制遺構」『山形史学研究』第７号　1971

2，川崎利夫・村山正市・山口博之『天童の城と館－城館が物語る郷土の歴史－』
天童市教育委員会・天童市旧東村山郡役所資料館　1993

3，天童市史編纂委員会『天童市史』上巻　1981

4，丸山茂『最上四十八館の研究』歴史図書社復刻版　1944

5，渡辺克司『風雲天童城』　1981

6，山形考古学会『山形県における埋蔵文化財破壊の実態』　1974

図　　版

図版１　塚田遺跡調査区

図版２　塚田遺跡調査区試掘ピット

図版３
鍬の町遺跡調査区
試掘ピット

図版４　鍬の町遺跡調査区

図版５
鍬の町条里遺構調査区
遠景

図版６
鍬の町条里遺構調査状況

図版７　鍬の町条里遺構土層

図版８天童古城東北部山麓調査区土層

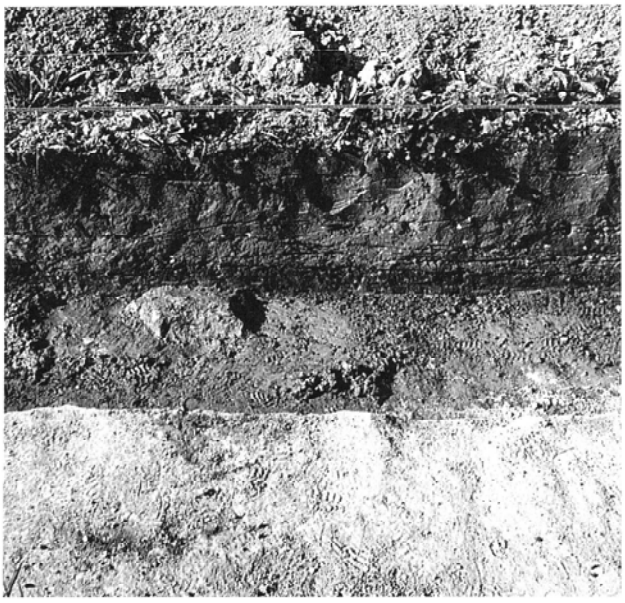
図版９
天童古城東北部山麓調査区

図版10
天童古城七日町地区
調査状況

図版11 推定大手口調査区

図版12　推定大手口作業状況

図版13　推定大手口Ａトレンチ土層

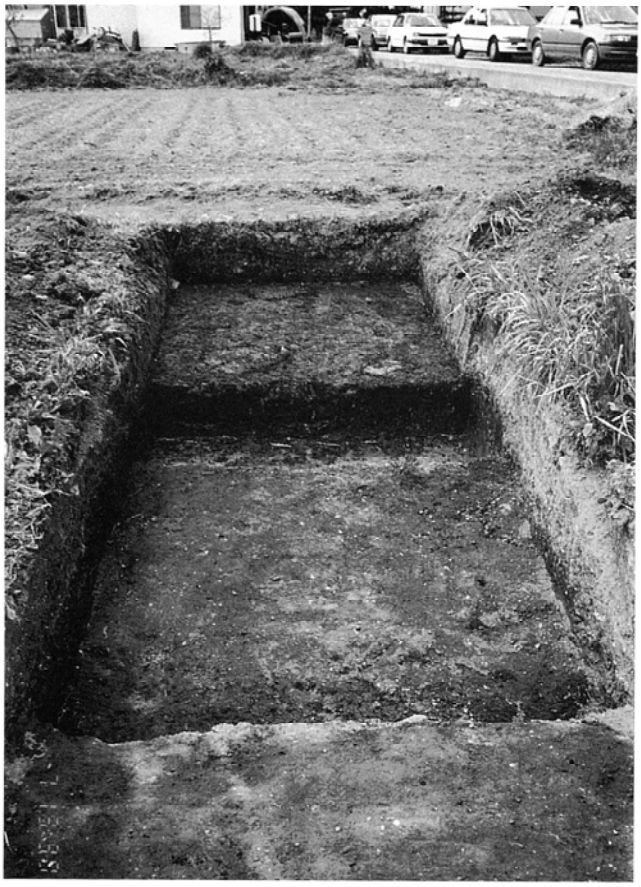


図版14　推定大手口　Ｂトレンチ ＥＰ１出土の短刀

図版15　短刀出土状況

図版16 推定大手口　Ｂトレンチピット検出状況

図版17　推定大手口で検出した道路　（人物が立っているところが道路の幅）



図版18
推定大手口で検出した側溝の
ついた道路

報　告　書　抄　録

ふりがな	くわのまち　わごう きたいち く いせきしょうさいぶんぷ ちょうさほうこくしょ
書　名	鍬の町・和合北目地区遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻　次	
シリーズ名	天童市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第８集
編著者名	村山　正市、長瀬　一男、長谷川　武
編集機関	山形県天童市教育委員会
所在地	〒994　山形県天童市老野森一丁目１番１号　☎0236-54-1111
発行月日	西暦　1995年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
つかだいせき	てんどうしかまたほんちょう						206	新市街地整備
塚田遺跡	天童市鎌田本町	6210	305	38度	140度	19940505～		事業に伴う遺
	いっちょうめ			21分	23分	19940511	(6)	跡詳細分布調
	一丁目			10秒	10秒			査
くわのまちいせき	てんどうし おおあざてんどう							
鍬の町遺跡	天童市大字天童		304	38度	140度		(10)	
	なかばんち			21分	23分			
	中１２番地ほか			5秒	10秒			
くわのまちじょうり	てんどうしおおあざやまもと							
鍬の町条里	天童市大字山元		303	38度	140度		(90)	
いこう	あざくわのまち			21分	23分			
遺構	字鍬の町			2秒	23秒			
	てんどうしおおあざぬくづ							
	天童市大字貫津							
	あざわごう							
	字和合							
てんどうこじょう	てんどうしおおあざ てんどう							
天童古城	天童市大字天童		270	38度	140度		(100)	
いせき	あざしろやま			20分	22分			
遺跡	字城山			52秒	54秒			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍬の町条里遺構（くわのまちじょうりいこう）	条里遺構	奈良・平安	旧畦畔跡　１箇所		遺物の出土がなく時期不明
天童古城遺跡（てんどうこじょういせき）	城跡	南北朝・室町	溝状遺構　１箇所 道路跡　１箇所 柱穴　１０箇所	両黒土器片　１点 短刀刀身　１点 金あわ　１点	遺物の出土がなく時期不明 現存長21㎝

天童市埋蔵文化財調査報告書　第８集

鍬の町・和合北目地区
遺跡詳細分布調査報告書

平成６年　３月２５日　印刷
平成６年　３月３１日　発行

発行　天童市教育委員会
印刷　豊田　太印刷所